

実践記録

学校/学年	小学校 / 5 年	
教科等：単元名	学級活動：「チェーンメールがきたら」	
キーワード	チェーンメール 対処の仕方	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☐ 情報社会の倫理 ■ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	C3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	C3-2：「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する。
授業会場	☐ パソコン教室 ■ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	チェーンメールがどんなものかを知り、これらが届いたときには次の人に回さず、無視したり、大人に相談したりするなどの判断ができる。	
使用教材	教材名	事例で学ぶN E Tモラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL 等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶN e tモラル」

○ 展開案

	学習活動	指導 評価
導 入	1 携帯電話の良いこと・困ることをワークシートに記入	・携帯電話の良いところを押さえつつ、困ることもあることに気づかせる。
展 開	2 映像クリップを見る 3 チェーンメールがきたらどうするか、ワークシートに記入し発表する。 4 映像クリップでまとめを見る。	・チェーンメールとは何かをおさえ、自分が受け取ったときのことを考えて記入するようにする。 ・まとめの映像で対処法を確認する。
お わ り	5 体験クリップで実際にチェーンメールが届いたときにどう対処するか確認する。 6 本時のふり返りをワークシートに書く。	自分にチェーンメールがきたら、次の人には回さず、信頼できる大人に相談すると判断することができる。

○ 授業の成果

- ・感想の中で、「携帯は便利だけど、気をつけなければいけないことがあるとわかった。」と書いた子がたくさんいた。自分の勝手な判断で対応しないことがおさえられた。また、携帯を持っている児童も、扱い方を考え直すきっかけとなった。

○ 指導のポイント・留意点

- ・携帯電話の怖さだけを強調しないようにすることが大事である。
- ・多様化するネット事情に対応できる子どもにしていくことが大事である。